

第4回泉南市総合計画審議会 会議録

日時：令和4年10月14日（金）13：00～

場所：泉南市役所 別館 会議室1 会議室2

1 開 会

2 案 件

(1) 総合計画（基本構想）（案）について

(2) 総合計画基本計画（案）分野別政策1・分野別政策2・分野別政策3について

3 その他

4 閉 会

【出席委員】

和泉委員、北村委員、上中委員、上山委員、松本委員、奥委員、川田委員、中澤委員、前川委員、山中委員

【欠席委員】

片木委員、土井委員、道場委員、若林委員

※順不同

1 開会

事務局：定刻となりましたので第4回泉南市総合計画審議会を開催します。委員の皆様には公私ともにご多忙の中ご出席を賜りありがとうございます。本日の出席委員は10名で、総合計画審議会規則第7条第2項の規定により本審議会が成立していることをご報告します。

（資料の確認）

審議会規則第7条第1項の規定により議長は会長が務めることとなっていますので、和泉会長に進行をお願いします。

2 案件

(1) 総合計画（基本構想）（案）について

会 長：まずは資料の修正点について事務局より説明をお願いします。

【事務局より、資料3に基づき修正点の説明】

会 長：ただ今の説明に対してご意見・ご質問等ございますか。
(質問・意見なし)

本日の案件に入ります。基本構想(案)22ページ「10年後の将来像」25～26ページ「まちの構造」の審議が残っています。22ページ「10年後の将来像」について検討していきたいと思います。前回の審議会で示された案についてインパクトがない、泉南市らしさが感じ取れないというご意見を頂戴し、それを踏まえ事務局で練り直していただきました。新しい案について説明をお願いします。

【事務局より、10年後の将来像(新案)の説明】

会 長：10年後の将来像(新案)について皆様からのご意見を頂戴したいと思います。

松本委員：案3の「ちょっとええやん なかなかええやん」は面白いですし、これに泉南市のことを言っているとわかる副題をつければもっとよくなると思いました。

会 長：下の説明文に書かれているように「なかなかええやん」が「めっちゃええやん」につながっていくというストーリー性もありますね。

前川委員：案2の「LONG★SPARK SENNAN」はダメだと思います。ロングパークの整備に関わった企業のイメージが強調され、また、海側の活気を市域全体へつなげていくという説明もどこまでできるのかと疑問に感じるからです。案3の「ちょっとええやん なかなかええやん」は柔らかいイメージでよいと思います。

上山委員：案4の「住人十色の幸せをえらべるまち 泉南市」がよいと思います。案3の「ちょっとええやん なかなかええやん」は何が「ええやん」なのかわかりません。案1の「『らしく。』せんなん」と案2の「LONG★SPARK SENNAN」は胸を打つような言葉ではないと思いました。

会 長：案3の「ちょっとええやん なかなかええやん」については事務局の説明にあったようにサブタイトルをつければ明確になるかもしれません。

北村委員：前回の案と比べるとよくなっていると思いますが、案1の「『らしく。』せんなん」はどこを「らしく」するかが見えません。何が泉南らしいのかを示さないことには曖昧な印象になります。アナグラムをうまく使っていますが「らしく」と「くらし」以外のアナグラムは可能ですか。案2の「LONG★SPARK SENNAN」のように英語を使う場合はネイティブチェックを入れていただきたいと思います。案3の「ちょっとええやん なかなかええやん」は語呂がよいですね。この言葉と泉南市をうま

くつなげられればもっとよくなると思います。ただ、何が「ええやん」なのかがよくわかりません。副題で方向性を示す必要があります。案4の「住人十色の幸せをえらべるまち 泉南市」は方向性が示されています。単純に読むと多様性を示しているのかと思います。基本計画の分野別政策のところで何が示せるかが重要で「住人十色」「えらべる」ということが成立する施策をきちんと打つ必要があります。

川田委員：行政が打ち出すスローガンとしては抜け感のある案3の「ちょっとええやん なかなかええやん」が面白くてよいと思いました。何が「ええやん」なのだろうと泉南市民以外の方が思ってくれ、食いついてくれるような気がします。こういうところがよいとしっかりわかる形や方向性があればいきますし“せんなん ええやん”という言葉をごどこかに組み込んでほしいと思います。

山中委員：案1の「『らしく。』せんなん」で「らしく」と「くらし」のアナグラムというのはありがちでオリジナリティに欠けると思います。私も案3の「ちょっとええやん なかなかええやん」を推します。副題をつける方がよいというお話も出ましたが、案4の「住人十色の幸せをえらべるまち 泉南市」をアレンジすれば曖昧さもなく堅くなりすぎず、ちょうどよいスローガンになるような気がします。

北村委員：案3の「ええやん」は長所に目をつけるという方向性です。これまでのスローガンは住み続けたい、今あるものを守っていきたい、欠点を改善していくことが示されていますが、案3は泉南の長所を見つけそこを伸ばすというスローガンだと思います。先ほども言ったように何が「ええやん」なのかを示していくことが大事です。

会 長：今の北村委員のお話でまとまった感じがします。実際、皆様のご意見でも案3がよいという方が多いので「ちょっとええやん なかなかええやん」を推挙したいと思います。サブタイトルもつけて10年後の将来像にしたいと考えていますが、ご賛同いただけますか。

(異議なし)

ありがとうございます。サブタイトルは事務局と私に一任ということにさせていただきたいと思います。続いて、25～26 ページ「まちの構造」について事務局より説明をお願いします。

【事務局より、まちの構造の説明】

会 長：市としては広域交流軸として泉南岩出線に力を入れたいということですが、ご質問・ご意見等ございますか。

上中委員：広域交流軸とは都市部の開発に力を入れていくということですか。区長会で審査指導課は何を指導しているのかという声があがっています。古い空き家を解体して勝手に販売しているようですが、その辺りきちんとしていけないとおかしな地域にな

ってしまうと思います。人口が減少する方向で検討していますが、明石市はいろいろな方策により増えているようです。泉南市はまちが小さくなっていく方向でしか考えないのですか。現状は小さくなってきたまちをどうするかという計画でしかありません。人口を増やすことをこの審議会では検討しないのですか。

事務局：まちなかの部分にミニ分譲地はあるものの開発には係らないケースが多く指導できない部分も多々あります。ただ、大きな開発も想定しており現在調整区域で未利用地部分が多いエリアを重点的に企業立地等、外からの投資を獲得しようというビジョンを持ってイメージ図を掲載している次第です。人口については、おっしゃるとおり明石市や和泉市では増えています。その要因としては大規模開発が両市にあります。当然施策によって増えた部分もあるので見習うべきところは見習いたいのですが、この10年計画で人口を増やすという思いきった目標を掲げることはできませんでした。できるだけ減少を抑制することを他市町村との差別化も図った上で行っていきたいという思いで構想をつくっております。

上中委員：明石市も和泉市も大規模開発を行ったから人口が増えたということですか。

事務局：明石市は子育て政策が優秀という評価があり、その世代の転入が増えています。

上中委員：泉南市も高齢者ばかり大事にせず、子育て世代向けのまちづくりをしていけばよいと思います。

会長：心強い言葉でした。人口減少の問題は25～26ページに収まるものではなく、細かな政策を考える際もその辺りを意識していく必要があると思います。開発については行政指導に当たらない小規模のところもあります。大きな開発となると市内ではここでしかできないという想定があり、それが26ページの楕円部分に反映されている気がします。

北村委員：26ページの要点としては山側より海側に集中していくという感じで捉えてもよいと思います。若い方向けに海側にシフトしていくのだろうと思いますが、それを示せるかどうかが大事です。示してしまうと山側の住民からは反発を買いますが、海側に集中させたいのであればその意志を買ってほしいと思います。エリアとして色をつけているところがありますが、ここをどうにかしたいと思っているだけなのでしょうか、それとも都市計画として用途を定めるのですか。コンパクトシティを本当に目指すのかとも思います。そのためにはきちんとした計画が要るし用途も示さなければなりません。

事務局：行政としてはこれまで多岐にわたる取組を並行して進めてきましたが、今後は泉南市の長所を伸ばし何かに集中していきたいという思いが強くなっています。現実的には高齢者の方からお子さんまですべての世代を網羅しなければならないのですが、

なかなか届かないことが多いので、市としては人材も含め特化しようと考えています。開発の部分ですが、海側、山側に新たに拠点をつくり少しずつでも市域全域に広がるようにという仕掛けをつくり出しているの、必ず、ここから市のにぎわいが変わっていくと思っております。

会 長： 特定の場所を示しているのは、ここをきっかけにどんどん広げていければというところかと思えます。

中澤委員： 岩出線がきれいになって交通の便もよくなってきました。私が住んでいる新家地区は人口が減り高齢化もしていますが、山を開発して旧村が小さくなるほど新興住宅地が出来ています。10年計画なら岩出線を利用して大きな開発の会社を呼び込むなど、にぎわうようにすればよいと思えます。泉南市はトンネルを越えると山ばかりで暗い感じですが、岩出市は明るい印象なので10年計画として岩出線周辺を整備してはどうかという気もします。

会 長： 岩出線を十分に活用できるよう、絵に描いた餅にはせず実効性のあるところを目指す計画をつくっていきたいと思っております。

上山委員： 26ページの将来都市構造図を見ると第4次、第5次からほとんど進んでいないような感じがします。そういう中、これからの10年間でどれだけ完成させられるのかと思えます。私は泉南に住んで50年近いのですが、発信の少なさを感じています。新聞記事になるのも泉州では泉佐野がトップで、泉南の記事はほとんどありません。その違いは何かと言えば、首長の姿勢だと思います。首長がもっと指導力を発揮し、こういうまちづくりをするということを示すべきです。我々がこれまでに何度も会議を開いてつくったまちづくりの方針を市長が読み解き、どうしていけば泉南市民が幸せになれるかを考えていく必要があると思えます。そして、今までの開発の仕方がよかったのかどうかも考えるべきです。新たに企業を呼び込み活性化させようとするなら、どの地域のどの部分に呼ぶかが問題だと思います。ゾーンをしっかり決める必要があります。

会 長： 第4次、第5次においてできていないものはできていないと反省・認識すべきで、それに対してどうアクションしていくかが重要です。何ができていないのかと振り返ることが必要だと思います。首長の姿勢についてのお話もありました。少し先の話になりますが、本計画が完成した暁には市長とお話しする機会を設けていただき、その中で皆さんから出た意見や私自身の考えを述べたいと思えます。

上中委員： コンパクトシティの予定地には市街化調整区域がたくさんあります。それをなんとかしなければ実現できないと思えます。前市長のときにはロングパークが整備されてにぎやかになりましたが、海沿いなので上に伸びようがありません。泉南市は田んぼなどの調整区域ばかりなので、これを解決しない限り前に進まないと思えます。

10年前から計画しているのに絵に描いた餅で何も変わっていません。

事務局：おっしゃるとおり調整区域では何もできません。都市計画の用途変更等もかなり厳しく市街化区域を増やすことに制限がある中、市としては地区計画という対応を考えています。調整区域に未利用地がたくさんあるのですが、それを活用するためにもどこかに基点を置き、そこを起爆剤として広げていきたいと思います。必ずなんらかの形で実現できるよう頑張ります。

北村委員：どこかの本社機能を持ってくることはできないかと思います。関東の都心地から40～50 km離れたエリアに本社機能が集まっています。泉南市も大阪の中心から40～50 km離れているのでポテンシャルはあると思います。本社を持ってくるくらいのことをすれば大きく変わります。ただ、そのためには市が土壌をつくりメリットを示すことが必要です。それができればいろいろな問題が解決すると思います。

会長：ここで傍聴希望の方が1名おいでですので、審議会の傍聴要領に基づき入室を承認することといたします。

(傍聴者入室)

会長：では審議に戻ります。他に何かございますか。

川田委員：上中委員から高齢者に対する支援は後回しでもよいというお話がありました。子育て世代にとっては非常に心強いご意見です。9月から来年3月までの小中学校の給食費が無償になりました。うちは子どもが2人いて10万円ほど浮く形になるので有り難く思っています。最近、年配の方から自分たちは構わないから孫世代がきちんと暮らしていける政策を進めてほしいというお話を伺いました。お互いに思いやりを持ちながら一緒に進んでいければと思います。私は泉南市の中途半端な田舎感が気に入っています。都会に出ようと思えば電車や高速で行ける一方、自然豊かで山も海もあるからです。私の出身の羽曳野市は暗い田舎ですが、泉南市は風が通り抜けるような田舎感で、そこが気に入っています。海側には近代的な施設が建ちおしやれな感じがしますが、その雰囲気は岩出線を使って上まで来るのはいやです。山側はアスレチックを誘致するなど自然をふんだんに使ってほしいし、途中で田んぼがあるのもよいですね。コンパクトな泉南市の中で海側の近代的な感じと山側の自然という違いを生み出せればと思います。

会長：皆様から頂戴したご意見を25～26ページに反映できるかわかりませんが、どこかのページに反映できるのであれば事務局と相談しながら反映していければと思います。以上で基本構想(案)の審議を終了したいと思いますが、ご承認いただけますか。

(異議なし)

会 長：ありがとうございます。それでは次の案件に移ります。

(2) 総合計画基本計画（案）分野別政策 1・分野別政策 2・分野別政策 3 について

会 長：基本計画（案）分野別政策 1 について事務局より説明をお願いします。

【事務局より、資料 5 に基づき分野別政策 1 の説明】

会 長：ご承認いただいた基本構想は方向性を示すものですが、ここからは基本計画ということで 23 施策についてご審議いただくこととなります。その中に成果指標や取組状況・背景、主な課題、市民の意見・アイデア、実施する主な取組があります。それでは、施策 1 「人権尊重・平和・多文化共生」施策 2 「男女平等参画・女性活躍」に関するご意見を頂戴したいと思います。

松本委員：資料を事前に送っていただけませんか。ここで初めて見て事務局が説明するのを聞いてからでは議論する時間が取れません。

事務局：今後は事前に送るようにします。また、今日ここで意見が出なくても随時受けつけるといふことにさせていただきたいと思います。

会 長：では、改めて皆様からのご意見を伺いたいと思います。

上中委員：施策 1 の主な課題 2 点目に「戦争を知らない世代への啓発」と書いていますが、具体的にどう啓発するのかという問題があると思います。3 点目に「国際化への意識啓発や外国人住民が～」ともありますが、一部の外国人について地域でトラブルになっています。それに対して行政は何も手助けしてくれません。共生していかなければならないことはよくわかりますが、それができる人とできない人がいます。行政としてはどういう立場を取るのですか。

事務局：外国人の件については地域課題だと捉えています。ただ、基本計画というのは個別具体的な話を記載するものではなく、基本計画の下の実施計画で考えていく内容になるかと思っています。

上中委員：実施計画は毎年策定するのですか。

事務局：はい。住民さんの問題を行政として把握した上、それに対しどういう支援ができるか、どういった形で解決を図れるかを現状に応じて考えていかなければならないと思っています。ただ、その部分については基本計画に載せるのではなく実施計画で考えるということになります。

- 上中委員：こういう問題があったときは実施計画にのっとなって対応していくというわけですね。
- 事務局：今おっしゃっている事例は今後も増えていくと思います。行政としては民事に介入できませんが、一定の線を越えたものとなれば公正・公平に判断していく所存です。トラブルが増えているとはお聞きしているので国・府も含めて今後対応していく必要がありますが、我々としてはできるだけ多様性と包摂性を持って多文化共生を推進し、共存共栄も含め誰一人取り残さないことを目指します。
- 上中委員：日本の法令を遵守しないからトラブルが起こるわけです。この辺りを 10 年計画の中に入れてとしても、泉南市だけでは対応できないと思います。どういう支援ができるかということを決めてもらう必要があります。相談に行っても相手にしてもらえないというのが実態です。
- 会長：本審議会でも個別の対応策までは言及できませんが、地域課題をこの場で共有するのはとても大切なことだと思います。
- 上中委員：施策 2 で女性の管理職が少ないことが示されていますが、辞退する女性職員がいるとも聞きます。
- 事務局：昇任試験を受ける女性職員が少ないという面があります。ただ、働き方改革ということで性別関係なく働きやすくサポートしやすい環境になっているので今後は増えていくだろうと考えています。
- 上中委員：現状値が低く今後も期待できないと思って言ったわけです。
- 松本委員：施策 1 の成果指標「人権問題に関して理解が深まった人の割合」の現状値が 83%、目標値が 88%となっていますが、この数値はどのようにして出したのですか。
- 事務局：人権に関する講座などに参加いただいた方に対して実施したアンケートを集計し平均値を出したものになります。
- 上山委員：施策 2 の成果指標「行政委員・審議会委員等における女性登用率」の現状値が 34.9%、目標値が 40.0%ですが、10 年間で 5%しか上げないというのはあまりにも低い目標だと思います。取組状況・背景の 3 点目を見ても「市職員における女性管理職の割合は 13.85%で、国が掲げる『指導的地位に占める女性の割合 30%程度』を下回っています」とあります。泉南市民のためになる施策を打つにはもっと女性の力が必要であるということで、目標値を 50%ぐらいにまで上げてはどうかと思いました。

事務局：達成可能な数字をベースに考えています。行政委員等については各団体に依頼するケースが多く 50.0%の目標設定も考えたのですが、現在は団体の代表が男性である率が高いため、現実的な目標値ということで 40.0%とした次第です。

会長：私もやや低いと思いますので、この数値については事務局とまた相談します。

北村委員：この数字が周辺自治体と比べて高いか低いかがわかりません。先ほどのスローガン案3「ちょっとええやん なかなかええやん」にしても、他自治体と比べてこれがストロングポイントだと示せるからこそ「ええやん」となるわけです。つまり、成果指標もストロングポイントがあれば高く設定できるということになります。

事務局：おっしゃるとおりだと思います。ここに記入するかどうかは別として、説明責任の中でそういったバックデータも持っていくことを検討します。

北村委員：すべてにというのは無理ですが、どこかにストロングポイントを持つことが重要です。施策1・2は先ほどのスローガン案4「住人十色の幸せをえらべるまち」のような多様性を示すものです。他のまちより多様性に富んでいると外の人にも思ってもらえるまちにすることが大事です。それには人権尊重や多文化共生に対応できるまちにしていく必要があります。LGBTQ や SOGI に関する記述が見当たりませんが、それについてどのように捉えていますか。国際化という文言はありますが、どのように対応していくのかと思います。多様性に関する制度が他のまちより進めばそれが「ええやん」になります。そういうものを示してほしいと思います。施策1の成果指標が「人権問題に関して理解が深まった人の割合」ですが、漠然とした書き方でどういう人権問題なのかわかりません。基本的な方針としてどこまでしようとしているのか、また、どこに強みを持たせるかを考える必要があると思います。

事務局：ご指摘のとおり何が「ええやん」なのかわかる記述、表現に変えるか検討します。

会長：ストロングポイントの件ですが、他自治体と比較するのが有効な施策とそうでない施策があります。例えば施策4「就学前教育・学校教育」の成果指標「幼稚園・学校に行くのが楽しいと思う子どもの割合」は他自治体と関係なく 100%を目指すべきです。

川田委員：施策2の取組状況・背景のところに男性市職員の育休取得者が少ないということが書かれていますが、実際の取得率はどのくらいですか。数値として出せないくらい低いのでしょうか。

事務局：取得したことがある職員の割合なのか、勤務日数に対してか、カウントの仕方が難しいのですが、いずれにしても低い状況です。

川田委員：全国の取得率は2021年度に13.97%ということでもだまだ低い中、泉南市はこの率を下回っているから明記できないのではないのでしょうか。役所の男性が率先して取得することが泉南市のアピールになると思います。委員の女性登用率など、女性ばかり目標値を掲げられても困ります。核家族化が進む中、夫婦2人だけで協力し合って育てるしかないという状況なので、男性職員の方の意識改革が必要です。それを進めるためにも、ある程度目標値のようなものを出してほしいと思います。

前川委員：男性職員の意識改革は、とても無理です。それ以前に育休を取得しやすい環境づくりが必要で、その辺りを強調してほしいと思います。実際、育休を取るとコストがかかり民間企業でもその問題が山積しています。

会長：施策1・2に関していただいたご意見のうち可能なものはできるだけ反映していきたいと思います。次回は施策15まで議論したいと思いますので、資料のお目通しをお願いします。それでは、案件については以上で終わりにしたいと思います。

3 その他

事務局：次回、第5回審議会につきましては10月27日（木）を予定しています。第6回審議会と第7回審議会の日程調整表をお配りしておりますので、10月21日（金）までにご回答いただきますようよろしくお願いいたします。第7回が最終の予定ですが、審議事項がまだ多く残っていますので状況を見つつまたご相談させていただきたいと思います。本審議会終了後に希望者の方に対して市内見学を予定しています。所要時間は2時間程度ですので、よろしくお願いいたします。

4 閉会

会長：これもちまして第4回泉南市総合計画審議会を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。